

インフューザーポンプの説明書

(ポート針：ウィングドシュアカン)



聖マリアンナ医科大学病院
腫瘍センター

令和4年 6月

～目次～

- 1、インフューザーポンプとは . . . 1 ページ
- 2、名称説明 2 ページ
- 3、取り扱い方法 3 ページ
- 4、自宅での針の抜きかた 5 ページ
- 5、針を抜いた後の処理方法 11 ページ
- 6、こんな時はどうするの? 12 ページ
- 7、トラブル時の連絡先 13 ページ



1 インフューザーポンプとは

インフューザーポンプとは「抗がん剤お持ち帰りポンプ」です。

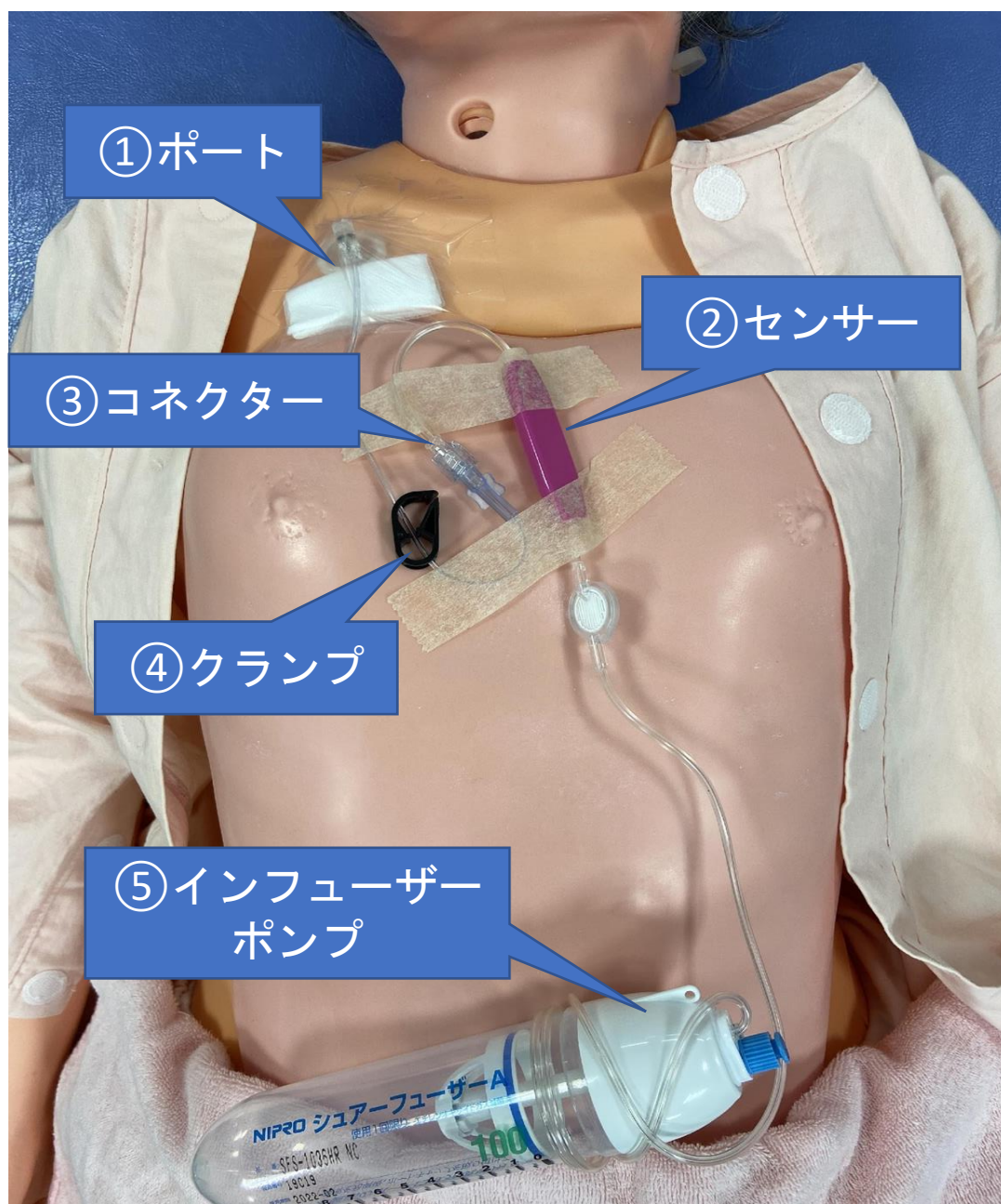
腫瘍センターで点滴終了後、抗がん剤の入ったポンプをつなぎ、自宅に帰宅します。

薬がなくなるまで46時間ほどかかります。

その間は、専用の袋等に入れてポンプを携帯します。



2 名称説明



- ①ポート
- ②センサー（流量制御器）
- ③コネクター（接続部）
- ④クランプ
- ⑤インフューザーポンプ

★腫瘍センターでの点滴治療終了後、
看護師がインフューザーポンプを接続します。

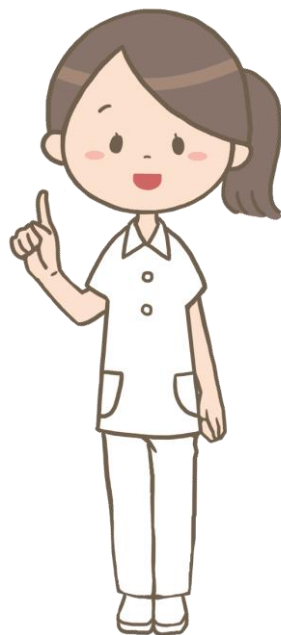
3 取り扱い方法

★日常生活で以下のことに気を付けましょう

- ・ チューブを引っ張ったり、折り曲げたりしない。
- ・ ポンプやポート部分を強くぶつけない。
- ・ 日常生活動作に制限はないが、過度な負荷は避ける。
- ・ 入浴やシャワー時はポンプやセンサー、針の部分を濡らさないために、サランラップ・ビニール袋等でしっかり保護する。
- ・ 固定テープが剥がれてしまった場合には新しいテープで補強する。
- ・ 車に乗る方は、シートベルトが直接針の部分に当たらないようにタオルをあてるなど工夫する。
- ・ 着替えの時は、衣類が針やセンサーに引っかからないようにする。

★起床時、就寝時、トイレの時など1日に数回は下記の項目を確認しましょう。

- ・薬が減っているか。メモリが減っているか。
- ・クランプが閉じていないか。
- ・チューブが折れ曲がっていないか。
- ・ポート部分の周りに痛みや赤み、腫れなどがいないか。
- ・固定テープが剥がれていないか。
- ・針が抜けていないか。
- ・センサー（流量制御器）が体に固定されているか。



4 自宅での針の抜きかた



- 針を抜く前に準備するもの
 - ヘパリンロックシリンジ
 - 消毒綿
 - 絆創膏
 - ビニール袋
 - 針捨て容器（蓋付きの空き瓶やタッパー）
 - 鏡（必要時）



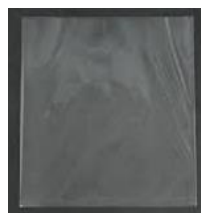
ヘパリン
ロックシリンジ



消毒綿



絆創膏



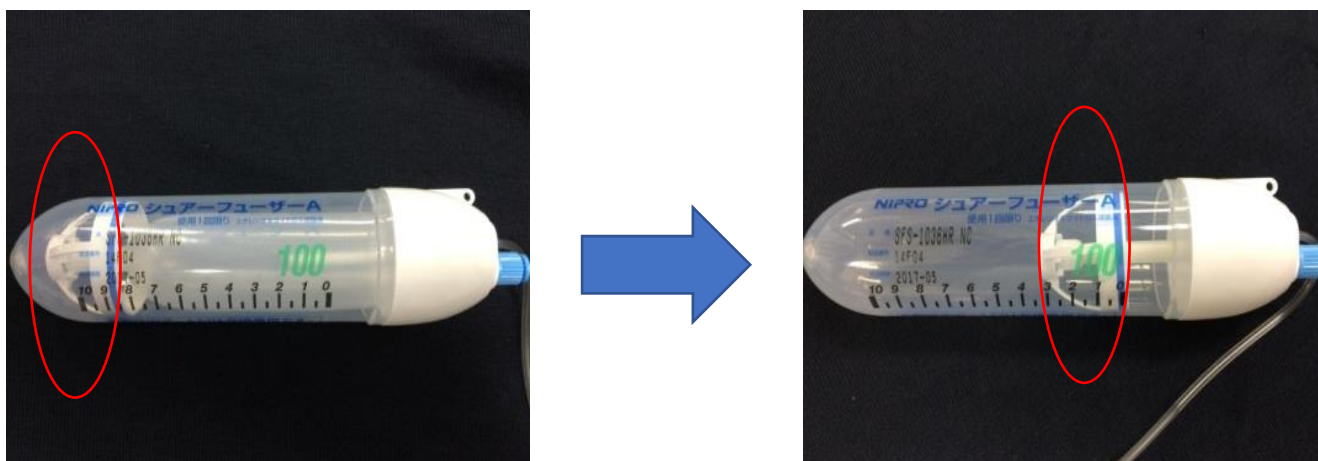
ビニール袋



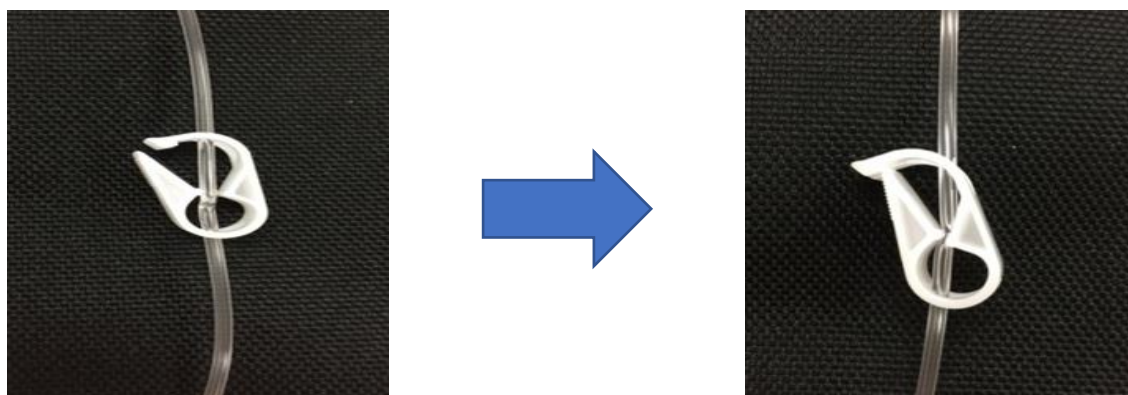
針捨て容器

①ポンプの確認、針を抜く準備

薬が全てなくなったか確認をしましょう。
メモリが「0」になったら終了です。



終了していたら、クランプを閉じます。



必要な物品（5 ページ）をテーブルに出しておきます。

※針を抜く前は石鹸で手を洗いましょう



②ヘパリンロックシリンジの空気を抜く

1) ヘパリンロックシリンジを袋から出します。



ここから開ける

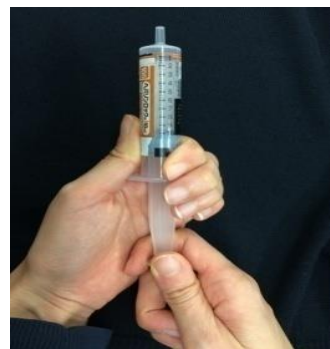


2) ヘパリンロックシリンジのふたを回しながら外します。

3) プランジャーをふた側に押し上げ、空気を抜きます。
(この時 1～2 滴ほど出ても問題ありません。)



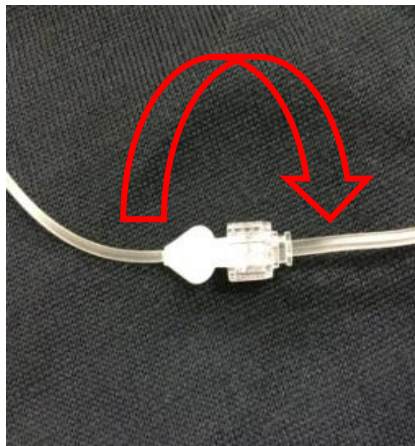
プランジャー



4) テーブルに置きます。
(先端が不潔にならないように注意してください。)

③ インフューザーポンプを外す

- 1) コネクター接続部分を反時計回りに回してポンプを管から外します。

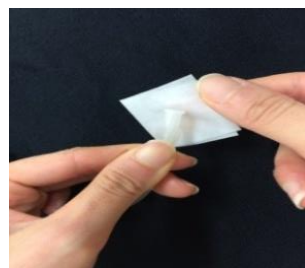


- 2) 外したポンプはビニール袋に入れます。

④ ヘパリンロックシリンジを注入する

※ポートの管の中の血液が固まらないようにヘパリンを注入します。

- 1) 消毒綿を開けます。
- 2) 消毒綿の面を変えながら、管の先を2～3回消毒します。



- 3) 利き手でないほうの手で管の先を持ちます。



- 4) 利き手でヘパリンロックシリンジを持ち、管に差し込みます。



- 5) クランプを開けます。



- 6) ヘパリンロックシリンジのプランジャーを押して、薬液を注入します。(少し入れて止める、また少し入れて止めるを繰り返して、数回に分けて注入します)

- 7) 注入し終わったら、クランプを閉じます。



⑤針を抜く（ウィングドシュアカン）

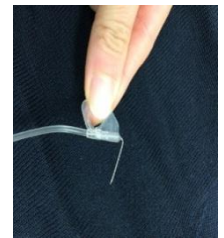
1) テープを剥がします。
ガーゼは無理に取らなくても大丈夫です。



2) 利き手で針のつまみを持ち、反対の手でポートの周囲をしっかりと押さえます。



3) つまみを身体から離すように真っ直ぐ引き抜きます。
指に針を刺さないよう気をつけましょう。



4) 消毒綿で針を抜いたところを消毒します。出血がある時は、消毒綿で圧迫し、止血してください。

5) 止血を確認したら絆創膏を貼ります。

6) 針は針捨て容器に入れふたをします。
ヘパリンロックシリンジはインフューザーポンプと一緒にビニール袋に入れてしっかりと結びます。

7) 最後に手を洗いましょう。

**★医療廃棄物のため、家庭ゴミには捨てるできません。
ビニール袋は口を結び、次回来院時にお持ちください。
捨て方は次のページを参照してください。**

5 針を抜いた後の処理方法

使用した針やポンプは医療廃棄物となりますので腫瘍センター内の決められた場所に捨ててください。

- 1) ごみ箱は処置室にあります
(腫瘍センターナースステーション手前)



- 2) 入って左手に黒いごみ箱があります。(手前の小さい方が患者様専用ごみ箱です。)
- 3) ペダルを足で踏んで蓋をあけて、袋ごと捨ててください。

- ★ごみ箱には手を入れないでください
(針刺し事故防止のため)
- ★使用した針を入れている容器から出して捨てる時は
針刺ししないよう注意してください
- ★処置室の扉が閉まっている時は、ナースステーション内の
看護師へお声かけください



6 こんな時はどうするの？

- ①へパリンロックシリンジを注入したが、薬液が入らない。
→クランプが開いているか確認します。
- ②針を抜いた部位から出血や浸出液が止まらない。
→消毒綿や清潔なガーゼなどでしばらく圧迫してください。
- ③ポンプが予定時刻になっても終わらない。
→センサーが身体から離れていないか確認し、
外れていたらテープで固定し直してください。
- ④針が途中で外れた、間違えて抜いてしまった。
→インフューザーポンプ内の薬が出てこないように、
クランプをとじて、袋に入れてください。

①～③を試しても問題が解決しない時、
また④の時は連絡をください。

連絡先は次のページを参照ください。

7 トラブル時の連絡先



聖マリアンナ医科大学病院 044-977-8111

電話交換手が出ます

平日

8:30~17:00

土曜日

8:30~12:30

夜間帯・休診日

電話交換手に腫瘍センター
ナースステーションに
繋いでくださいと伝えて
ください

看護師が出たら、
名前と診察券番号を
伝えてから相談して
ください

電話交換手に腫瘍内科
の当直医師につないで
くださいと伝えてくだ
さい（*日によって血
液内科医師が代理で出
る場合があります）

当直医師が出たら、
名前と診察券番号を
伝えてから相談して
ください